

令和5年度 江戸川区立平井西小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	・やさしい心 ・じょうぶな体 ・かながえる力	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子供一人一人が輝き、生涯教育の基礎づくりが発揮される学校 ○自己肯定感、自己有用感を持ち、夢と希望をもつ児童 ○時代の変化やキャリアステージに応じて自らの資質能力を高めることのできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・開校70周年記念式典の挙行を通し、地域・保護者と連携を強化することができた。 <課題> ・考える力を育成していく。 ・教えるから育てるを念頭に子供たちの主体的な学びを推進していく。 ・特別な支援を要する児童への支援や関係諸機関との連携をさらに深め、学校体制を整備していく。		

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策		
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント	
学力の向上	<学び合う力とコミュニケーション力の向上> ・授業改善の推進と学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・低・中・高学年で学習に集中できる時間の目標をもつ。 ・学習の振り返りができるように授業後に板書をTeamsに投稿する。 ・3～6年生の理科・社会科・外国語活動、外国語科での部分的な教科担任制の導入。	・低学年15分、中学年20分、高学年30分間、集中して学習できる児童95%以上。 ・1日1回は、板書をTeamsに投稿する。 ・各学年毎学期いずれかの教科で1単元実施。	B	B	○学習に集中できるようになってきている児童が、95%程度となっている。 ○Teamsでの授業後の板書投稿は40%程度の学級ができた。 ○3年生以上の学年では、理科と社会科で教科担任制を導入して進められた。	B	黒板を使っている発表では、発表者に偏りがないか気になった。グループでの話し合いでは、個を見逃さないようにしてほしい。	教科横断的な視点をもって、学習を充実させる上で、各教科等との関連を図り、児童が主体的に課題を見付け、自ら解決に向けて取り組むことができるよう配慮し、授業の質的改善に取り組む。 板書のTeams投稿については、今後も実施し、授業の質を高められるようにする。 理科と社会科で教科担任制を進めていく。	
	<基礎的、基本的な学力を身に付ける> ・学習の基盤となる基礎的、基本的な学力を身に付ける取組の充実	・一人一台端末の日常的な使用を目指す学習活動の実施。 ・放課後補習教室による個に応じた継続的な学習支援の実施。 ・「Study Every Day!(江戸川っ子study week!)」として朝学習と家庭学習で東京ベシックドリル国語・算数の実施。	・毎日の使用率100%。 ・東京ベシックドリル診断シート8割達成者90%以上。 ・各学級の課題提出率85%以上。		A	A	○端末は様々な学習活動で使用している。使い方について、全児童が集まった時に情報担当から使い方について話し、統一を図った。 ○放課後補習教室と連携をとり、参加児童の課題となっている内容の個別指導により学習の定着が見られた。 ○「Study Every Day!(江戸川っ子study week!)」では取組優秀児童を表彰し、学習の意欲付けが行えた。	B	「Study Every Day!(江戸川っ子study week!)」では、前年度までの学習内容を定着させるために1学年前の学習内容の課題を出し、取り組ませていることが分かった。引き続き、基礎学力の定着をお願いします。	SNSや一人1台端末の使い方の「平井西小学校ルール」を活用し、児童が安全に活動する。 東京ベシックドリル診断シートの取組を継続して行っていただくことで学習内容の定着を図っていく。「Study Every Day!(江戸川っ子study week!)」では、ドリルパークを活用し、児童は、正答率が100%になるまで取り組み、基礎・基本の定着を目指す。
	<探究的な読書活動> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・資料の収集の仕方や記録の取り方を身に付け、自分の考えを表現する読書科の実施。 ・年間を通しての本に親しむための取組の実施。(リーディングパディ、読書郵便、読書ピンコ) ・区の巡回司書による、図書館活用を目的とした授業の実施。	・読書科での成果物の出展。 ・年間を通しての本に親しむための取組の100%実施。 ・全学年が、年1回、区の巡回司書による、図書館活用を目的とした授業の実施。		B	B	○読書科コンクールへの出展などの読書科の取組について分かった。20年以上続いている図書ボランティアの活動で、動画撮影してほかの学級の児童も見られるようにした取り組みはよいと思う。引き続き、本に親しむ環境を整えてほしい。	B	読書科コンクールへの出展など読書科の取組について分かった。20年以上続いている図書ボランティアの活動で、動画撮影してほかの学級の児童も見られるようにした取り組みはよいと思う。引き続き、本に親しむ環境を整えてほしい。	児童が本に親しむ機会を増やすため、図書ボランティアと連携し、土曜授業では教員とボランティアによる読み聞かせ活動紹介を行い、多くの保護者に活動の価値を伝え、家庭においても読書に親しむ環境が構築できるようにする。
体力の向上	<健康で丈夫な体づくり> ・外遊びの奨励	・休み時間の外遊びの奨励。 ・持久走、なわとび月間、長縄集会の実施。 ・年間を通して、「ウキウキタイム」の実施。	・学校共有アンケートの「児童は、休み時間や放課後の時間等に、外で遊んでいる。」の問いに肯定的回答が90%以上。 ・学校共有アンケートの「児童が運動に親しむことができる授業や取組が行われている。」の問いに肯定的回答が90%以上。	B	B	○今年度より、中休みと昼休みの外遊びを全校実施に戻し、外遊びの機会が増えた。今後実施していく持久走となわとび月間に向けて引き続き、外遊びを奨励した。 ●休み時間のけがが増えた。	B	本校児童の体力が平均を超えていてよかった。外遊びの機会が増えたことはよいことだと思う。引き続き、奨励して体力向上を目指してほしい。	中休みや昼休みの外遊びを積極的に促し、健康で丈夫な体づくりを推進する。江戸川っ子縄跳びチャレンジウィーク、長縄集会、持久走月間の実施等、年間を通して計画的に実施することで、運動大好きな児童を育成する。けがの防止のため、休み時間に校庭での見守り教員を増やしていく。	
	<食育の推進> ・食に関する興味・関心を高める取組の充実	・全学年、年1回体験的な食育活動を実施。	・学校共有アンケートでの「児童(お子様)、給食や食育の授業を通して、食に関する興味・関心を高めていますか。」の肯定的回答をした教員と保護者が80%以上。	A	A	○各学年1回の食育授業を実施した。 ○本校の食育や給食の様子を知っていただく機会として給食試食会を4回実施できた。	A	食育の取組について分かった。今年度、再開した給食試食会を通して、保護者へ減塩の取組などを保護者に伝えられてよかった。次年度も設定してほしい。	食育全体計画に基づき、アレルギー対応や食品ロス等の課題を踏まえ、給食指導と関連を図りながら、食育を計画的に推進する。取組を通して、望ましい食習慣を確立するとともに、食に関する知識・能力を身に付けられるようにする。	
共生社会の実現に向けた教育の推進	<豊かな人間性> ・相手の立場や気持ちを理解する心を育む取組の充実	・地域人材や施設等を生かした学習や体験交流学習、特別活動の実施。	・学校共有アンケートの「児童は、学校が楽しいと言っている。」の問いに肯定的回答が95%以上。 ・学校共有アンケートの「児童は、思いやりをもって行動している。」の問いに肯定的回答が95%以上。	A	A	○年間計画に地域人材や施設等を生かした学習活動を位置付けて、計画的に行うことができた。2年生では、町探検を実施。地域の施設に協力していただき、様々な施設を回る事ができた。天祖神社では、神輿を見学させてもらい、実際の祭りに多くの児童が参加でき、地域に根差した学習となった。	A	地域に出ることが増え、喜ばしい。地域の施設等でつながりたところがあったら言ってほしい。協力します。	今年度実施できたことを次年度以降も継続できるように実施案等の記録を残すようにする。次年度の年間計画に位置付ける。	
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・週に1度のおおざり学級での個別の指導と評価、在籍学級担任との情報共有の実施。 ・年間15回の校内委員会の実施。 ・年間3回の校内判定委員会の実施。 ・常時、特別支援教室専門員との連絡・相談体制の確立。	・週に1度のおおざり学級での個別の指導と評価、在籍学級担任との情報共有の実施率100%。 ・年間15回の校内委員会の実施。 ・年間3回の校内判定委員会の実施。 ・常時、特別支援教室専門員との連絡・相談体制の確立。		B	B	○おおざり学級に通級している児童について巡回指導教員と担任、保護者が個人面談等で情報を共有して進めることができた。 ○校内委員会では、校内児童について全校で情報を共有し、学校態勢で指導や支援ができるように進めた。	B	特別支援教育について校内体制で取り組んでいることが分かった。	特別支援コーディネーターを中心に、「特別支援校内委員会」を定期的に設定し、支援を要する児童について、現況や今後の支援の方向について話し合う。話し合いや児童への対応の様子は、週に一度の生活指導委員会にて、経過報告を行い、全教職員で共通理解を図るとともに、必要に応じて関係諸機関と連携をとって、適切に対応をする。
子どもたちの健全育成	<あいさつ、正しい言葉遣いの推奨> ・あいさつと正しい言葉遣いの推奨 ・いじめ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・学級輪番制で行うあいさつ当番の実施。 ・いじめアンケートや学校に関するアンケートを学期ごとに実施する。 ・「hyper-QU」を実施し、児童の実態を知ると共に一人一人に応じた支援を進める。	・学校共有アンケートの「児童は、だれに対しても、元気よく気持ちのよい挨拶ができる。」の問いに肯定的回答が95%以上。 ・学校共有アンケートの「教員は、日頃から個々の児童に寄り添い、認め・励ます姿勢で接している。」の問いに肯定的回答が90%以上。	B	B	○三者協議会で、旗持ち等の大人に対する挨拶に課題があることを伝えられ、生活指導部では、ハッピーポイント週間とし、挨拶運動の取組を実施。大人への挨拶が少しずつできるようになってきた。 ○ふれあい月間では、アンケートをもとにいじめについて確認し、指導を進めた。いじめ対策委員会で情報共有し、継続案件は学校全体で見ている。	B	少しずつ、挨拶する児童が増えているように感じる。引き続き、取組を行って挨拶を進んでできるようにしてほしい。安全に気を付けて登下校できるようにしてほしい。 いじめ防止に対する取り組みが分かった。いじめがなくなるように引き続き、お願いします。	気持ちのよいあいさつ・正しい言葉遣いのできる子どもを目指し、全学年輪番制の「朝のあいさつ当番」の活動や「ハッピーポイント週間」を通して、児童自らあいさつをしようとする実践的態度を育む。	
	<規則正しい生活習慣の推奨> ・西っ子家庭ルール週間の実施	・毎学期、西っ子家庭ルール週間を実施する。	・毎学期の実施と実施後の振り返り100%実施。	B	B	○1学期はゴールデンウィーク明けに、2学期は夏休み明けに実施した。生活のリズムを整える一助となった。	B	長期休み明けは、生活リズムが崩れているので良い取り組みだと思う。	冬休み明けの実施する。児童自身が自分の生活を振り返り、自分で生活を気付けられるように声掛けする。	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・ホームページやTeams、学校便りによる教育活動の周知。 ・学校公開や行事等への積極的な参観と感想を集約。	・学校共有アンケートで「学校はお便りやホームページ、Teamsで学校の様子や取組を伝えているか。」の肯定的回答が80%以上。 ・学校公開と運動会、学習発表会の実施とアンケート回収率60%以上。	B	B	○ホームページやTeamsを使って学校生活の様子を伝えている。 ●学校公開と運動会(140人)、学習発表会(89人)の実施後のアンケート回収率は、60%を下回ったが、肯定的な意見を多くいただいた。改善が必要なことについては検討していく。	B	学校の様子が伝わる。行事には多くの保護者が参観に来ている。	学校の様子を伝える機会として引き続き、ホームページやTeamsへ投稿する。 アンケートの回収率が上がるように呼び掛けていく。	
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・児童、保護者への教育アンケートの実施。学校評議員への学校関係者評価の実施。 ・中間評価と年度末における評価を基にした改善策の実施。	・外部評価「学校共有アンケート」の確実な実施と肯定的回答全項目において80%以上。 ・評価を基にした教育課程の改善。	B	B	○保護者へは11月末に共有アンケートを実施。 ○夏休みに学校をよりよくしていくために未来創造委員会を開いた。 ○重点課題の検討のため、臨時運営会を開いた。	B	保護者や地域の方の意見に耳を傾け、改善できることを考えていただき、ありがたい。	改善できることについて、担当分掌で話し合い、次年度の計画に生かしていく。	
	<特色ある教育活動の展開> ・異年齢集団による縦割り班活動	・集会等の時間を活用した縦割り班活動の実施。 ・兄弟学年との学習活動の実施。	・縦割り班活動の100%実施。 ・兄弟学年との学習活動を学期1回以上実施。	B	B	○なかよし給食や縦割り遊びの実施と兄弟学年での学習活動が進められた。	B	異学年と関わる機会があり、よい活動だと思う。	縦割り班活動について、コロナ禍以前に実施していた活動を現状に合った形でできるように見直し、計画を立てていく。	